

アゼルバイジャンにおけるキャッシュレス化の動き

1. アゼルバイジャンにおける電子支払い等の促進の取組

アゼルバイジャン政府は2018年9月に発表された「電子支払促進プログラム」(大統領令)に基づいて、中央銀行を中心としてキャッシュレス支払いの拡大に向けたインフラ整備や啓発活動に取り組んできました。中央銀行によれば、その結果 e-バンク口座、デビットカードの利用等が大幅に増加しているようです。中央銀行は、現金取引からキャッシュレス取引への移行をさらに促すために、フィンテックを利用して、より便利な電子サービスの提供を全国的に拡大していくことを計画しています。

2. e-コマース、非接触型支払いカードの利用の増加

中央銀行によれば、2020年のデビットカード等のカード支払いによる e-コマース(電子商取引)取引高は前年比 22%増で 39 億マナト(1ドル=1.7マナト)に達しました。また、非接触型支払いカード(デビットカード等)の発行数が前年比 2.5 倍となり 370 万枚に達し、非接触型カード対応の POS 端末は前年比 13%増で 3.42 万台になりました。2020年の非接触型カードによる支払い額は、前年比 5.4 倍と大幅に増加しています。

実際にバクー市内の多くのスーパーマーケットをはじめとする小売店で非接触型カード対応の POS 端末が利用されています。また、アゼルバイジャンにおける商取引の電子化は、アゼルバイジャン経済の大きな課題の一つである汚職の撲滅にも貢献しています。

(以上)